

南相馬市小池第二応急仮設住宅の住民による 震災・原発事故体験に関する覚え書き

柴 田 哲 雄

解 説

2011年3月11日に起きた東日本大震災、並びにその後の原発事故によって避難を余儀なくされた人々の覚え書きを、筆者が収集しようと思いついたのは、何よりも後世のための歴史資料として保存したいと考えたからである。筆者は元来、第二次大戦中に日本軍の占領下にあった中国の政治や社会について研究していたが、その際、最も苦労したのは、当時の民衆が何を考え、何を思っていたのかを直裁に示す史料を収集することであった。権力者は（及びそれに反対する側も）自らの考えを色々表明することから、その記録は手を加えられることなく後世に残るものである。一方、民衆については、第三者を介した間接的な記録、すなわち書き手の主観が入っていたり、検閲がなされていたりする記録しか残らないことが多いと言える。

そのような思いを抱きながら、筆者がたまたま福島県の地方紙である『福島民報』（2011年9月6日付け）の読者投書欄「みんなのひろば」に目を通していたところ、南相馬市の仮設住宅に住む大井守氏（76歳）が、後世に記録を残すために仮設住宅の住民一同で手記を作成したいと書いておられるのを見つけた。筆者は早速『福島民報』を通して大井氏に連絡を取り、住民の方々の手記を本学の紀要に載せたい旨を申し入れ、大井氏の快諾を得た。

ここに掲載するのは、大井氏の筆者宛の手紙2通と随筆1編、並びに南相馬市の小池第二応急仮設住宅に暮らす大井氏の家庭を含む21の被災家庭に対して、大井氏自身が行なった聴き取り調査記録「不忘 2011.3.11 PM2:46 後世へ伝える!! 記録集」（ただし最後の福島市在住の菅野万正氏のみ自ら手記を執筆し、寄稿された）である。被害を運よく免れた者は、福島の被災者の胸のうちには万感の思いが詰まっており、その覚え書きにもさぞかし様々な感情

がほとぼしっていると安易に想像しがちであるが、大井氏の手紙にあるように「聞き取りするとなぜか口を閉ざします」というのが実情である。人はあまりにも過酷な体験をすると、それを言語化することさえ難しくなり、断片的なことしか語り得ないのだというのが真実ではなかろうか。マスコミ関係者や研究者は、ともするとそうした断片化された被災者の記憶や思いをつなぎ合わせて、良くも悪くも3・11の悲劇の物語を構築しようとする。しかしジャーナリストでもなく、研究者でもなく、ともに仮設住宅に暮らす仲間である大井氏は、隣人たちの断片的かつ混乱した記憶や思いをそのまま提示するばかりである。しかしながら筆者は、たとえそのような覚え書きであっても、それが被災住民自身の手になるがゆえに、かえって後世への貴重な歴史資料になるのではないかと考えている。またそうした趣旨から、筆者はあえて文中の誤字・脱字についても訂正せずに、原文のまま掲載することとした。なお被災者の年齢は2011年11月時点のものである。最後に大井氏をはじめとする小池第二応急仮設住宅の方々に謝意を表すると同時に、一刻も早い生活の再建を祈念したい。

大井守氏から筆者への手紙①

柴田哲雄 様

東日本大震災による、巨大地震、巨大津波で得た貴重な体験、東京電力福島第一原子力発電所事故により強制的に避難され、その生活の経験等、粗雑ですが、まとまりましたので御送り致します。

皆さんそれぞれ思い出したくない。言葉では表現出来ない等の言葉が多く、まとまりのない内容で恐縮です。この様な内容で、役立つならば、御利用下さい。

※だれもが、地震、津波は自然災害。でも東京電力の事故は人災である。くやしい、早く何とかしろ！！

国も県も電力も一体何をするとのイカリが大きい。

原発事故から8ヶ月、250日余り、これからの設計等何も出来てない。生活、老後、教育、育児等何も出来ない事への不安不満、イカリの叫び…貴重財産、思い出の品物が一瞬にて流失した人々の思い…しかし、聞き取りするとなぜか口を閉ざします。

落ちぶれて、袖に涙のかかる時、人の心の奥ぞ知らるる！！

詠人知らずですが、全国各地の方々から心温まる励ましの言葉、支給された品物を見聞する毎に、ただ涙です。心の栄養とも云う、うれしい感謝の念で一パイです。

これからは、本格的な冬の到来ですが、暖房用具の支給も有り、心身共に温まる事が出来ません。

しかし、原子力発電所に関する報道を見聞すると、身も心も凍て付く程くやしいです。

テレビに向かって、物を投げつけたいです。これも人、それぞれが持って生まれた運命かも知れません。

同じ小高町（旧）でも、山側、海側との人的交流が少なかったです。仮設住宅に入居、全員が家族です。

毎朝、ラジカセに拡声器を付けて7時50分から相馬地方の代表的民謡を再現します。

皆さんおどりながら集まって来ます。8時からラジオ体操第一、第二をやります。終了したら集会所にて、茶話会、ニギヤカにしております。これからも当分の間、この様な生活かと考えます。心を一つに、お互いを大切に生活して行きます。

鹿島仮設住宅で第一号の防犯協会を設立しました。

「小さな池（小池の地名）を大きな愛で守り隊」楽しみながら、がんばります。

乱筆乱文ですみません。

よろしく、お願い申し上げます。

平成23年11月26日

小池第二応急仮設住宅 大井 守

大井守氏から筆者への手紙②

柴田哲雄 様

御健勝にて、毎日御精勤されてると存じます。早速ですが、届いた原稿、再度の校正終了しました。協力された皆様に確認の為、聞き取りを行った為、おそくなりました。そして、おそくなりました事に対して、おわびを致します。

私もお蔭様にて、元気です。桜の花、満開になりました。何故か今年も満開の桜を見ても、喜ぶ事が出来ません。

警戒区域の再編で、日昼のみ自由に帰宅出来る様になりました。我々は両手をあげて喜んでるのは有りません。

家にもどって、一番先の仕事は、屋敷の伸び放題の雑草処理、お墓の手入れです。しかし、刈取った雑草（冬枯してる）を1ヶ所に置き、焼しては駄目、放射性物質の物を近くに置きたくないのが本当です。井戸水はのむな、水洗トイレは使うな、宿泊は駄目…等何の計画もないです。彼岸、お盆等先祖に対して、線香すらたむける事が出来ない。かなしさ、くやしきで胸がはりさけそうです。

南相馬市も何の施策もなく、国からの押しつけで物事を進めてる様です。警戒区域再編についての説明が3回あったが、国の責任ある職員不在、質問に対して、市職員が立止ってる状態が続出で大混乱でした。

これから除染を行うそうですが、ただ3年先の事です。大地震により、被害を受けた屋根カワラを注文しても3～4年待ち、屋内のカベ材も全く入手困難の事で、人間が人間らしい生活をするのは相当先の事です。

家に帰って良いと云われて、戻るのは高齢者が大多数です。孤立、孤独死と云う問題が出て来ます。これに対して行政は何等計画がないです。無策です。

当仮設住宅自治会で太鼓の演奏会、ヴァイオリン、ことの演奏会、沖縄民謡と三味線の集等で毎日たのしく、全員元気に頑張っておりますので御放心下さい。

又、別紙の通り、自宅の有る行政区で発行した文集です。送りますので、何か役立つ事があれば御利用ください。

旧小高町に居ると聞こえて来る様な気がします。

替歌

医者も居ねえ一、店屋も無え一、

働く会社も無えー、あるものは放射能だけ。
ああ おらこんな小高町いやだー
北海道か、沖縄で働いてくらすべー
笑って下さい。

平成24年4月19日

大井 守

大井守氏の随筆

「信頼 拝啓放射能様へ」

放射能様、あなたは何故、突然我々の所に現れたのですか。

人間、動植物、土、水、空気すべてを汚染して満足ですか。

我々は未だ、あなたに対して何等敵意を抱く事なく、信頼し合って来た仲ではないですか。天国に旅立った人々も同じ思いだったはずです。

すべての人が安心して、信頼していたのです。

放射能様、今からでも遅くないです。

日本の国、世界を背負って行く大切な子供達です。

思い切り、屋外で遊びたいです。すくすくと成長してる子供を大自然の中で、自由に遊ばせてやりたいのです。

両親、肉親の無念さを考えて下さい。……

この願い必ず受け入れてくれると信じます。

頼りにしています。放射能様、あなたの本来の役目は、人間、動植物、土、水、空気に対して、安心を与える為この世に存在したのではないですか。我々は信頼します。

人間社会に光を与える等、共存共栄の間柄である事と。

放射能様、多くの人々が以前の様に生活にもどれる様に最大の努力をしてくれませんか。

一日でも一秒でも早く、全員無事で戻って楽しい我が家、地域での楽しい毎日をイメージトレーニングをして下さい。

放射能様、あなたは出来ます。絶対、必ず実行して下さい。

我々人間、動植物、土、水、空気から離れて下さい。

我々は必ず実行してくれるものと信頼しています。

放射能様、我々の肉眼では見る事が出来ません。見る事が不可能なのです、この悲しさ理解して下さい。そして信頼と言う言葉を合言葉にしたいです。目には見えないが心と心、愛と愛……信頼しています。一刻も早く我々人間、動植物、土、水、空気から離れて本来の役目を果たして下さい。

放射能様……放射能様……放射能様……

大井 守

鹿児島区小池原畑

不忘 2011.3.11 PM2:46

後世へ伝える!! 記録集

南相馬市小高区羽倉字君ヶ沢 大井 守 76歳

その時あなたは	小高区蛭沢、宮下一さん宅にて、育苗ハウスの側の伐採作業中、第一回目の地震。軽トラにしがみついた。シルバー人材センターにて就業中、路面が割れるのを見た。第二回目の地震時休耕田に伏せてた。近くの家物の置がつぶれるのを見た。PM3:00迄現場に居た。
家族の状況	妻と娘二人がいたが、無事。
被災状況	築7年の住宅屋根のぐしが全部落ちた。屋内仏壇が倒れメチャメチャ。寝室のTV 50cm 位台から転落。洗濯機の乾燥機も転落。壁3箇所ヒビ割れ。
避難状況	15日、AM8:30頃迄屋内避難と判断し生活してた。15日～20日迄の4日間、相馬郡飯館村公民館いちばん館へ。21日、埼玉県富士見市在中の次女宅へ。
避難先	埼玉県富士見市東みずほ台。7月10日迄、避難生活。7月11日、南相馬市鹿島区小池字原畑730小池第二応急住宅に入居。
仮設住宅の今	9月ともなれば、稲刈り、秋冬野菜取付、取り入れの最中。集会所や外の広場にてワイワイがやがや。気分的に楽、心をいやす最大のくすり。
これからの計画	早く帰りたい。8月19日、車の持ち出しで帰宅。見渡す限り、田も畑も雑草が伸び放題。帰って、くずれた墓や仏壇を直す。畑の土は？ 放射性物質により野菜等作付不能？

国、東電は何をしてる。見殺す気か。

南相馬市小高区角部内 浜部 典 80歳／ヒサエ 79歳

その時あなたは	家の内（昼寝）とび出した。南相馬10メートル位の津波とテレビで放送、避難する様呼びかけが有った。妻と二人高台、20メートル以上の津波押し寄せた。時速約80キロの速さ。
家族の状況	家流れた。貴重品他現金約10万円。家族4人で高台。
被災状況	母屋、隠居屋、孫の家、全部流失。水田約4ヘクタール耕作、農機具全部流出。トラクター、田植機、コンバイン、籾乾燥機。
避難状況	水谷建設研修センターへ。泣く女性多く、なぐさめに苦労した。ここは海岸線が一直線の為、津波が来る心配ないと安心してた。だが、もし津波が来たらあの高台に逃げっぺなと話してた、良かった、避難して来た人々約80人と喜び合った。
避難先	水谷建設2日～3日居。親族2日居。原町区石神体育館2泊—○2泊—青兼3泊。仮設6月20日。
仮設住宅の今	仲間が多くなり、毎日楽しい。ラジオ体操楽しい。茶話会毎日、話し合い、笑い、原発事故さえなければ、家族で今後の事を話し合い出来たのにくやしい。
これからの計画	国、県の指示を待つしかない。

南相馬市小高区角部内 中野 義政 85歳

<p>その時あなたは</p>	<p>裏山の高い所にて薪切、津波であらゆるものが流されるのを見た。地面に伏せた。</p>
<p>家族の状況</p>	<p>長男夫婦仕事に出かけてた（土建業をしてる）。第一原子力発電所仕事で無事。</p>
<p>被災状況</p>	<p>住宅1F全部流失。物置の中にあった農機具、トラクター2台、コンバイン2台、家具すべて流失。田植え機、乾燥機等全部。</p>
<p>避難状況</p>	<p>水谷建設研修センター―片草の娘宅へ2泊―原町第一小学校へ3日、郡山市へ。</p>
<p>避難先</p>	<p>孫の居埼玉県草加市に7日間―横浜娘宅へ―2日。5月末日仮設へ。</p>
<p>仮設住宅の今</p>	<p>浜部さんと同じ、毎朝7時50分ラジカセから流れる、相馬民謡に元気付けられる。尺八作りを楽しんでる。原発事故さえなければ、これからの計画等で忙しいはず…。</p>
<p>これからの計画</p>	<p>長男夫婦にまかせてるので、何もわからない。元の所に住みたい。原発の事故なければ、仲間での話し合いが出来てた。</p>

南相馬市小高区羽倉 渡部 栄 70歳

その時あなたは	大熊町野上8828号、軽トラ走行中、地震とは気が付かなかった。信号機止まっていた。旧国道迄30分、鉄橋等落下してたを見た。
家族の状況	妻デイサービスセンターへ（寝たきり）。長男も無事。
被災状況	家、被害なし。後日、野生化した牛約5～6頭により被害大きい。みそおけ2ヶ等被害あった。
避難状況	体の不自由な妻、長男3人で横浜へ2.5ヶ月、看護上次女宅へ、ガソリン不足で苦労。医者アドバイス→土日以外に移動する事進められる。本人は自宅にもどる。感謝。
避難先	この時、妻は南相馬市立病院に入院中、無理退院させられた。原町第二中学校から横浜次女宅→仮設へ7月始め。
仮設住宅の今	妻デイサービスセンター、日曜日休み。知り合いが多くなり、朝夕、散歩してる。
これからの計画	早く帰りたい。家の周り、9月のお彼岸、お盆の墓参りできず、心が痛む。掃除を徹底的にやり、先祖に対して供養をしたい。

寝たきりの女房（3年）を連れて避難するにもガソリン欠く。区役所へ行って、横浜の次女宅へ行くガソリンを補助してくれと依頼したが、行政は何もしてくれなかった。

南相馬市小高区羽倉 一刀 良夫 71歳

その時あなたは	タクシー乗務中、乗客の安全の為、停車して止まるのを待った。乗客が居た。
家族の状況	母一人で居た。無事。則夫、ガードマン。仕事中だったが無事。
被災状況	屋内、風呂等タイルひび割れ。水道管破裂。
避難状況	3人仙台→山形天童→南会津100日。
避難先	ペンション入居。南会津では農家の離れを借用。
仮設住宅の今	週2日位、以前の仕事タクシーの運転手をして、畑を借り、野菜を作りをしたのしんでる。早朝の仕事は気分が晴れる。
これからの計画	90歳の母と兄弟3人揃って、新盆の父を養供したい。 原発事故なければ、自宅のカラオケスタジオで歌、おどりで楽しんでた。以前の様に、たのしい毎日でありたい。

南相馬市小高区飯崎 発田 36歳

その時あなたは	パート終え、子供幼稚園迎えに行く。家に入ったら地震、子供テーブルの下へ、下の子自分の体守る。全員車で金房小学校へ。
家族の状況	家族無事。11日の夜、車中泊。12日朝、鹿島区内印刷所の事ム所へ。子供夜泣きする。経験したことない。小学校1年、幼稚園。
被災状況	中古建物を購入。内はガラガラです。
避難状況	相馬市会社の寮へ。
避難先	ふれあいハウス5日、二本松丘温泉9日、南魚沼市7～8日、雇用促進住宅へ1ヶ月。そして、現仮設へ。
仮設住宅の今	子供3人（小1、乳幼児）を抱えての生活。主人は印刷会社。仮設住宅内の人々に面倒見てもらってるので楽しいです。
これからの計画	小1から3人の子供。早く小高を安全な居住地としてほしい。子供が大事、戻りたくない。でも戻りたい。

南相馬市小高区角部内 古内 和子 57歳

その時あなたは	野菜作りで一休みしようと家の内へ、コーヒータイムの時。あわてずに行動しようとしたが、だめ!! やっと外に出る。
家族の状況	バーチャンと高台へ、犬と一緒に原町区石神の実家へ。夫、小丸自動車整備工場で作事中、帰宅途中、車毎津波に流された。母、4月17日発見される。
被災状況	食器棚、行ったり来たり。隠居、物置等3棟ない。家屋全部なし。カミナリの鳴る音で、振り返ったら家は無かった。わずか数秒間でした。
避難状況	水谷研修センター2泊。石神実家→5日→茨城→東村山→横浜。
避難先	東村山4ヶ月。
仮設住宅の今	義母との2人生活。一時も忘れることの出来ない面影とともに、住んで行く。自然災害と人災の2重苦。一体、我々はどうするも出来ない。役立たずのバカ役人ども。
これからの計画	元の所には住みたくない。集団移転か、子供宅に行くかも。

毎朝、ラジオ体操、楽しみにしてる。

南相馬市小高区片草 行徳 65歳

その時あなたは	犬の散歩へ。道路に倒れた。灯油ストーブ心配かけ、もどる。 無事で一安心。
家族の状況	病身の夫、無事。嫁、中三卒業式、学校へ。国道6号～小木追へ難のがれた。
被災状況	被害なし。20キロ圏内。
避難状況	
避難先	石神へ追ったが○2Pで十日→自宅に送る。→郡山娘宅1日間→飯豊東体育館予定が居心地よく、居付く。1ヵ月一家族の関係で会津所山へ分散。夫は施設へ。
仮設住宅の今	入院中の夫へ、3度の食事の介護をしてる、皆さん親切ですので、心地良い生活。
これからの計画	帰りたい。夫を帰宅させて、安心を与えたい。上層部の人々は、もっともっとしっかりしてほしい。

南相馬市小高区羽倉 一刀 知子 46歳

<p>その時あなたは</p>	<p>家。知子→ゆれによく驚く。体の不自由な父（70歳）が心配になり、揺れる家の内に入り父を抱きしめる。父、安心して笑顔を見る。</p>
<p>家族の状況</p>	<p>2人家族無事。</p>
<p>被災状況</p>	<p>戸棚、ガラス、ガラガラ。食器棚、中味だめ。</p>
<p>避難状況</p>	<p>車の中、6時30分家の内に入った。12日～14日家に居た。</p>
<p>避難先</p>	<p>仙台のおば宅へ、一刀良夫さん宅の3人と2人計5人で行く。山形天童一サ ンレール10日位、家に戻る。</p>
<p>仮設住宅の今</p>	<p>父と2人、止むを得ずガマン。</p>
<p>これからの計画</p>	<p>家に帰りたい。体の不自由な父を安心させたい。多くの人々に、お世話になりたいです。</p>

南相馬市小高区角部内 且塚 仁美 25歳

その時あなたは	ブロイラー会社。外に出た。安全な所。おじいちゃん心配。TELしたが不通。
家族の状況	ザーヤン無事メール（おじ）。夫婦4人無事。
被災状況	建物内に被害。村上の人が片草区車で来た。津波が来ると知らされる。津波により、家メチャクチャです。
震災直後の避難状況	妹、弟、おじちゃん、5人→会社の同僚宅。
避難先	水谷建設センターに集合→全員～北塩原ステージ全員→仮設。
仮設住宅の今	親類宅へ落ちたい様です。そんな気持ちが強い。
これからの計画	家族で自宅に戻りたい。

南相馬市小高区金谷 鈴木 正昭／妻 春江

その時あなたは	家に居た。義母（82歳）の介護、紙オムツの交換、家がつぶれる。死ぬかと思った。築7年目の家だが、生きた心地しなかった。
家族の状況	夫、次男、常磐自動車道工事従事。長男…原発関連の仕事。娘サガミ呉服店。無事確認し安心。
被災状況	食器棚、陶器ガラガラ。夫、仕事を失う（左官職人）。
避難状況	自宅～原町区北原親類宅に2ヶ月。
避難先	原町区の一軒家2ヶ月～仮設。
仮設住宅の今	原発関連、戻られず精神的苦痛大。毎朝、ラジオ体操をたのしみ。茶話会が何よりたのしみ。
これからの計画	帰りたい。いつの日か必ず戻る。精神的な問題です。

南相馬市小高区角部内 古内 公友 63歳

その時あなたは	相馬税務署…集団申告会場を出た時。道路が割れるのを見た。液状化現象、水がふき出るのを見た。約6m位、地面4つんばいとなって沈むのを待った。女性の悲鳴すごかった。
家族の状況	母、ペット無事。
被災状況	水谷研修センター。家、津波により流出。
避難状況	14日、持ち物何もなく、与えられた毛布2枚さびしかった。高齢の義母、良くガンバツタとおどろく。
避難先	第二小体育館11日川俣・合宿所～受付で拒否、南相馬市民会館だめ12日入った。7日位→埼玉スーパーアリーナ25日。
仮設住宅の今	群馬草津1ヶ月位→飯坂1ヶ月。6月2日仮設住宅に落付く。
これからの計画	原発の関係で何の計画も立たない。国県東電の野郎共何をしてる。早く片付けろと叫びたい。

南相馬市小高区川房 黒木 勝信 80歳

その時あなたは	老人ホーム梅の家、見舞い→玄関自動車、家ゆれの為、エンジンかけられず、おさまる迄車の中。自宅に帰る途中、1200年前の家つぶれるのを見た。
家族の状況	家族全員、無事。
被災状況	壁にヒビ。食器棚倒れる。ガタガタ、散乱し歩行困難。
避難状況	12日19時、石神第2中学校～上真野小学校へ。
避難先	飯坂みちのく荘—今の仮設へ。
仮設住宅の今	長男の家族とは別の部屋に住んでいるが、となり同士なので心強い。孫（中1、中3の女の子）遊びに来るし、たのしい。ラジオ体操たのしみ。
これからの計画	線量高い場所（発表されてる）帰れるはずが無い。でも必ず帰って、野菜作り等をしたい。

今の問題…野生化した和牛に屋敷内外荒れてる。

南相馬市小高区羽倉 鎌田 尊夫 75歳

その時あなたは	自宅にて菜園手入れ、地鳴りすごい。西側の高い山が崩れるかと思った。地震、住宅が移動するように見えた。東京で個人タクシーの運転手を約20年間していたが、このおそろしきは未経験。
家族の状況	一人暮らしの為（子供は東京住まい）、ニワトリ、兔を飼育してる。
被災状況	家具ガラガラ倒れ、無残な姿に大自然の力を感じた。屋根も少しこわれた。自分で出来る所は修理した。
避難状況	4日目に避難した。
避難先	福島あづま球場4日～東京へ息子が伺いに来る。ガソリンがなく、車動かせない為。
仮設住宅の今	野球練習の為、原町区借上住宅に入る。友人宅にも世話になった3日もあった。
これからの計画	原発事故さえなければ、自宅で朝、ペット類の手入れをして楽しんだのに、くやしい。一番たのしいこの年令、全部なくした原発くやしい。

南相馬市小高区東町 早川 玉枝 62歳

その時あなたは	ダイ8スーパーに勤務中、地震、商品棚支えたが、全身に電機感じる。
家族の状況	車で帰る途中津波にのまれ、車ごと流される。車の窓開けられず、近くの人に外から開けてもらい、脱出。全身ずぶぬれ、寒さ感じなかった。子供、富岡町夜ノ森の会社、無事。
被災状況	自宅、家具ガラガラ、テレビ無事。
避難状況	県立小高工業高校体育館～原町小～新潟県三条市へ避難。多くの人々と知り合い、たのしい避難生活。
避難先	三条市では報道機関の取材受けたり、面白い毎日。
仮設住宅の今	息子も単身赴任の仕事、一人暮らしとなった。紙の折物等で楽しんでいる。
これからの計画	20キロ圏内だが、早く帰りたい。小さいながらも我家で生活したい。

南相馬市小高区角部内 古内 孝一 61歳/妻

その時あなたは	原町介護してた老人85才抱きかかえる、避難後死亡、避難民心が大きくくずれた。
家族の状況	夫、飯館山仕事、ケガなし。おばあさん、畑に居た。
被災状況	家具等、グチャグチャ。家形ある。友人知人宅のところ、海岸から離れている為、津波の被害なし。考えると、つらい、泣きたい。
避難状況	水谷建設…申し訳ない、話したくないとの事です。
避難先	
仮設住宅の今	
これからの計画	

南相馬市小高区角部内 古内 公友／妻

その時あなたは	ハウス育苗準備中。夫は仕事先、一人で頑張る。おば（91歳）を家から引出し、畑うつ伏せになり地震の終るを待った。
家族の状況	全員無事。
被災状況	水谷建設へ。原町親類宅～川俣町の道の駅、車の中で泊る、寒かった。石神第二小学校～川俣体育館。
避難状況	家流出。大事な農機具流れた。思い出もの、先祖から引き継いだ家具全部流出。先祖代々に申し訳けない。
避難先	渡利小～十六沼体育館。仮設ナリタへ。
仮設住宅の今	先祖に申し訳けない気分。でも皆さんも同じと自分に云い聞かせてる。今迄知らなかった人とも仲良くなり、たのしい毎日。
これからの計画	原発事故くやしい。何も計画ない。早く、我家に入り、ゆっくりしたい。

南相馬市小高区角部内 内城 昭夫／妻

その時あなたは	会社日昌製作所で工作中。天井、壁下がる。早く帰宅する様指示あり。
家族の状況	被害なし。津波前に帰宅、おばあさんと避難させる。
被災状況	目の前に大津波。家流出した。流される家を見た時の大声、自分の声とは思えない。
避難状況	家が流れるのを見て、海の水より多い涙…おばあさん抱えて、ふるえ止まらず。
避難先	水谷建設研修センター～石神小～埼玉アリーナ。
仮設住宅の今	毎朝、ラジオ体操がたのしみ。今も家が流されるのを目にうかぶ。大自然の恐ろしさを思い出し、生活、でも、たのしいです。
これからの計画	被災前の土地には住めないが、帰りたい。一時帰宅で見た我家土台だけ。発電所事故さえなければ。約250日以上過ぎた今、つらくても移転先やそして、これからの生活の事考えてた。

南相馬市小高区上町 菊池 良夫 68歳

その時あなたは	洋裁の仕事。外にとび出し。玄関戸外へ。平屋の中でつぶれて大丈夫。迷う多かった。
家族の状況	家つぶれると考えた。建物無事。食器棚の中味ガラガラ。生活するのには大丈夫。
被災状況	トイレ使用不可。妻娘原町娘宅、孫と居たが、恐ろしくて帰れない。別居中の父（89）を連れ出す。戸障子のガラス全部ダメ。
避難状況	小高工業体育館～新地体育館11日～鹿島サテライトカシマ～3日～仙台娘宅アパートに11人で住む。寒い、トイレの中つまり山の様子。
避難先	
仮設住宅の今	本来の仕事を少しずつし、洋服直ししてる。気が晴れる。ラジオ体操、体中栄養がある。
これからの計画	国県、東電の対応悪い。原発の為最大の犠牲、大丈夫になれば帰りたい。

南相馬市小高区角部内 荒木 テル子

その時あなたは	畑仕事（ジャガイモ）。伏せた。畑に伏せた。
家族の状況	長男妻犠牲、物を片付けるために2F下から（犠牲になると活をした）。早く逃げると大声で叫んだ。
被災状況	家流失。車等全部押し流されてるのを見た。言葉では表せない。ペットは命の恩人大事にしたい。地獄を見た思い。
避難状況	高台の畑…ペットに引っ張られて避難所へ。振り向いたら長男妻イク子が2Fに居流れたのを見た。高台に5～6人居た。心強かった。
避難先	水谷～11日～原町第一～一杯で第2小4日、相馬女高4ヶ月、埼玉富士見市へ。
仮設住宅の今	毎朝、ラジオ体操、気分良い。茶話会もたのしい。つらい事も一瞬忘れる事が出来る。
これからの計画	原発の関係で、皆で集って話する出来ない年老いた今、家がないのが全く心細い。早く原発終息してほしい。

平成23年3月11日午後

今年80歳になる私に体験したことのない大震災でした。この津波の時私は国道6号線沿いにある有山のガソリンスタンドにおりました。地震のために事務所の中の本棚等が散乱していたので高野君と発田君と私の3人で片付けをしていました。

その時、会社のお得意の鎌田君が店に来て塚原の母のところに行って来たいと言うので、私の車で社員の高野君に、鎌田君を乗せていくように伝えました。ところがすぐに戻ってきて「会長大変だ、大きな津波がそこまで来ている、すぐに、この車で高いところに避難だ」と言うことでそのまま発田君を乗せて谷口工業の高台に向かいました。谷口さんの社員が早く早く私の車を案内しておりました。丘に上がり終えたら私の車を追いかけるように真っ黒い海水が追って来ておりました。危ない所でした。鎌田君があの時来てくれなかったら私たちと車がさらわれるところでした。

3月12日事務所に遺体が

その後、谷口さんに翌朝までお世話になりました。岡田の自宅から迎えに来てくれたので、道路のがれきを片付けながら進み、ようやく自宅に着くことができました。翌日12日に事務所の中に泥、土、畳類、布団、木くず葉など様々のがれきが大量に入りこんでいました。事務所の北側のガラスが、流れてきた木材にぶち当たり割れてしまったため事務所の周りの海水が一斉に入り込んだのでした。その勢いで机や椅子、事務機類が一つの塊になって事務所の片隅に固まってしまっていました。事務所の入り口から少しづつ泥やがれきをスコップで片付けていたところ、若い男性の遺体が打つ伏せになっているのを発見しました。

その後も事務所の中を半分ほど片づけをしていたところ、今度は双葉原発で爆発した。避難の指示があったということです。この日の午後、原町の陣が崎に避難しました。

転々と避難の後、福島市の笹谷へ

陣が崎に避難したらいいと思っていたのですが、ここでも危ないと言うので、ここから60キロ離れた新地の町へ行こうということで、新地に向かいました。ところが来てみるとここも津波の被害で水道やトイレが使えないということで、一晩だけお世話になり、今度は相馬の弟の自宅に移動しました。ここは幸いにも水道、水洗トイレもお風呂などが無事で3日目に風呂に入ることができました。しかしこの地区も危険地区だということで2日目夜中、福島市に向かいました。福島のだこという決まったところがなく福島に明け方ついたが、さあ、どうしようかと相談しましたが、結局、家内の実家の笹谷に電話しようということになり、電話いたしました。総勢19人になっていました、内訳は万正の組の5人、岡崎組「塩や金物」の8人、

加藤組の6人でした。それでしたら笹谷では先ず来てください、そして朝飯でも食べてから飯坂温泉に電話して引受けるところを探しましょう、ということに成りました。

家内の実家では大変だったと思います。一虚に19人分もの朝ご飯の支度のほか座敷の片付け等、おそらくてんやわんやだったと思います。

結局、飯坂温泉のホテル静山に決まりました。一晚御厄介になりましたのですが、ここも水道が断水していて水洗トイレが使えず、食事もなかった、翌日それぞれいく先を相談して決めました。万正組は3人、私と家内と娘、岡崎組は新潟へ10人うち万正組2人、加藤組は6人仙台へ。

家内の実家佐藤要助さんに、私たち3人が御厄介になりました。今になって思えば、この時の選択が良い方向に向かった様に思います。

心の美里 笹谷

御世話になった、家内の実家、佐藤要助さんのみなさん、息子さんその奥さんそして3人の娘さんの献身的なご協力、例えば3人分の布団、毎日の食事、心のこもった御馳走、座椅子、座布団の提供など。

お風呂は大きい浴槽で、いつも一番風呂を頂いておりました。いつも熱すぎず、ぬるすぎず、本当にいい風呂いい湯加減でした、それに加えて14日間も放置していた2匹の犬を連れて来た時、どうしようかと悩んでいましたら、その犬、扱ってもいいよと、おっしゃいましたので扱っていただきました。今もそのままお世話になっております。しかも笹谷にも座敷の犬だけでも2匹いるのです。この扱っても大変です。スエーデンから日本人に帰化した小泉八雲が日本の婦人をこう評価した話は有名です。どんな美術品よりも綺麗な彫刻品よりも優れて綺麗なのは、日本の女性だという言葉があります。日本の女性はこの世で一番素晴らしい芸術品で生きた芸術品なのです。笹谷の奥さんはじめ3人娘さん小泉八雲言葉そのままです。ありがとうございます。以上。

福島市笹谷宇南金屋
菅野万正